

田中每実先生のご退職に寄せて

学校教育センター副センター長
松下 良平 (教育学科)

京都大学高等教育研究開発推進センターを定年でご退職後の9年間、本学とりわけ本学校教育センターのためにご尽力くださったことに、まずは改めて感謝申し上げます。このたびのご退職は定年というわけではなく、あくまでも自らのご決断によるものですが、この間のお仕事ぶりを見ても、自らの任務をやり尽くしたとの思いがおありだったのだらうと推察しています。思い描いた成果がひとまず得られ、一定の軌道に乗ったので、あとは後輩たちに託す、というお気持ちだったのではないのでしょうか。

ご在職中の成果の中でも特筆すべき一つが、2019年4月、学校教育センターに教師教育研究部門を設置されたことです。本学には付置研究所が十余数ありますが、そのうちの一つということになります。教育職員免許法改正も絡み、文学部の一学科であった教育学科を教育学部教育学科へと再編するタイミングとちょうど重なったために、同年5月に新設の教育学部と共催で記念シンポジウム「女子大学の教師教育を創る」を開催しました。この企画は武庫川女子大学開学80周年行事の一環としても位置づけられました。私自身の個人的なことをいえば、それまで2年間教育学部創設に携わり、この年度から新たに学校教育センターの副センター長になったこともあって、とりわけ印象深いものとなりました。

*

教師教育研究部門は、本センターのもう一つのセクションである教師教育支援部門と密接に連携・協働しながら、武庫川学院の教師教育を豊かに展開させることを目的としています。教師教育制度の最適化や（主に卒業生をターゲットにする）研修制度の開発について、調査、評価、提案を行うことが主な任務になっています。とはいえ、本学のためだけの研究を行うものではありません。教員採用冬の時代に向けて、教員養成の実績をもつ四つの女子大学（武庫川女子大学、同志社女子大学、京都女子大学、日本女子大学）と協力・連携し、情報の交換と互助のネットワークを編み上げることもまた、大きな特徴となっています。そのため、研究部門は「嘱託研究員」という身分で学外研究員にも協力していただいています。ここでも田中每実先生の人脈が活かされることになりました。上記4女子大学だけでなく、奈良女子大学、関西学院大学、同志社大学、大阪大学、京都大学からも学外研究員を招聘し、本学あるいは女子大学における教師教育研究に大きな刺激を与えてもらっています。

本研究部門での研究スタイルは、田中先生が京都大学高等教育研究開発推進センター長時代に築き上げられた共同研究スタイルを踏まえたものであり、全研究員集会やシンポジウムを年間計画上の重要な柱としています。とはいえ、発足2年目の2020年度は、新型コロナウイルス感染症のために共同研究の成果を文書という形でしか残せませんでした。築いてくださった人脈をこれから活かしていけるのか、不安が残りますが、豊かな遺産をなんとか引き継いでいきたい、と念じているところです。

*

田中センター長の組織運営スタイルは、ご持論の「半身の構え」を巧みに活かしつつ、各方面との交渉や調整のために自ら積極的に動く一方で、大学内の人びとの「相互生成」を促すために、集まり、議論し、励まし、外部にも組織を開き、ということに集約されるのではないのでしょうか。これは先の共同研究のスタイルとも重なっているように思われます。いずれの場合でもお酒も積極的に活用され

ました。けっして万全のご体調ではなかったと思われませんが、率先して酒席を設け、忌憚なき交流の場を盛り上げてくださいました。

これまた京大のセンター長時代の研究合宿の応用ではなかったかと思うのですが、2016年度に学校教育センター委員として一年間お仕事を共にしたときには研修合宿も経験しました。本学に赴任して2年目の私は、大学から予算を獲得してこんな行事もできるのか、とちょっと驚いたものです。さすがに学校教育センターと教職支援室の組織統合の折の特別企画であり、毎年というわけにはいかなかったのですが、大学における「教職協働」を促進しようという意図もそこには込められていたように思います。その点に関していえば、志半ばという結果になりましたが、職員の研究員化をめざして本年度も最後まで尽力されていました。「教職協働」の実質化も、残された者に託された重い「宿題」といえます。

*

最終年度はコロナ禍のために、田中先生の組織運営や共同研究のスタイルが十分に活かされないことになってしまいました。なじみのお店で一緒にワインや日本酒を酌み交わすこともままなりません。画竜点睛を欠き、いささか無念の思いのまま本学を後にされるのではないかと、それだけは残念でなりません。でも残された私たちは、静かに去って行かれるからこそ余計にしみじみと感じられるご不在の重みを受けとめて、前に進むしかありません。切っ先の鋭いあの晴れ晴れとしたお声と、諧謔や児戯の気配をほのかににじませたあの笑顔に励まされ、じっと睨まれたら思わず後ずさりしたくなるようなあの眼力に促されるようにして。

田中先生は、学校教育センター長として東奔西走されているあいだも、人間形成論や大学教育学の専門家として自らの研究を着実に進めてこられました。武庫女時代のご研究を集大成した大著『啓蒙と教育』がまもなく出版されるとのことですが、今後はたっぷりとおある時間の中で積み残した研究にさらに精力的に取り組まれるのではないのでしょうか。教育学・教育哲学という同じ研究分野の後輩としては、今度はそちらを楽しみにしているところです。

(2020年11月吉日)